平成２８年度　お茶の水女子大学経営協議会〔第２回〕議事録

日　　時：平成２８年１０月１８日（火）１５：００～１７：００
場　　所：お茶の水女子大学　大学本館２階　第一会議室（２１３室）
出 席 者：（学外委員）相澤委員、上田委員、大橋委員、小野委員、坂本委員、野間口委員、毛利委員
（学内委員）室伏学長、榊原理事、髙﨑理事、小川理事、江澤理事、猪崎副学長、真島副学長、佐々木副学長、山﨑副学長（事務総括）
（陪　　席）吉武監事
菅原文教育学部長、吉田理学部長、香西生活科学部長、
最上大学院人間文化創成科学研究科長

１．議事録（案）の確認
○　内容及び大学ホームページへの掲載について、了承した。

２．学長報告
○　室伏学長より、平成 29 年度経営協議会の学外委員について、【資料３】に基づき説明があった。また平成 29 年度第 1 回経営協議会の開催日程案について変更の提案があり、第 1 回は平成 29 年 6 月 28 日（水）に開催することとした。

３．審議事項
（１）平成 28 年度学内補正予算（案）について
○　榊原理事より、平成 28 年度学内補正予算（案）について、【資料４】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。また、平成 28 年度人事院勧告の本学の対応について、【資料４　参考資料】に基づき説明があり、国会での法案成立後となる学内の規程改正は、学長に一任することとし、審議の結果、原案のとおり承認された。
　相澤委員より、人事院勧告対応に伴う支出分は、当初予算の段階で想定していた事項か確認があり、鈴木財務課長より、人事院勧告対応に伴う支出分を想定し、当初予算において予備費として確保していたとの説明があった。

（２）志賀高原体育運動場廃止（案）について
○　榊原理事より、志賀高原体育運動場廃止（案）について、【資料５】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

４．報告事項
（１）国立大学法人お茶の水女子大学と国立大学法人筑波大学の大学間協定締結について
○　真島副学長より、国立大学法人お茶の水女子大学と国立大学法人筑波大学の大学間協定締結について、【資料６】に基づき報告があった。
　小野委員より、両大学は元々高等師範学校として協力関係を築いており、筑波大学の附属学校も隣接しているため、お互いの教育資源を有効に活用し、教員同士の交流も積極的に行ってほしいとの助言があった。

（２）平成 27 事業年度及び第２期中期目標期間に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会ヒアリングについて

○　榊原理事より平成 27 事業年度及び第２期中期目標期間に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会ヒアリングについて、【資料７】に基づき報告があった。

野間口委員より、「AO」及び「GPA」の意味について確認があり、髙﨑理事より、AO は Admissions Office、GPA は Grade Point Average の略語で、GPA は素点で付けた成績から特定の方式により算出した評価値であるとの説明があった。関連して、小川理事より、PBTS は Project Based Team Study の略語で、学生たち自身がテーマを設定し、チームで研究し解決していくという本学の特色ある教育内容の一つであるとの補足説明があった。

小野委員より、資金運用における運用益の増加について確認があり、榊原理事より、財務課による今後 5 年間の人件費シミュレーションなど細かい分析作業を行い、算出された余裕金を定期預金に回すことで運用益が前年度より増したとの説明があった。

（３）平成 29 年度概算要求の経過について

○　榊原理事より、平成 29 年度概算要求の経過について、【資料８】に基づき報告があった。

上田委員より、PCB 廃棄物の保管場所について確認があり、渡邉施設課長より理学部 3 号館の機械室内に合法的に保存しており、今回計上されているものは、照明器具の安定器及びその他の小型 PCB 廃棄物の処理費用であるとの説明があった。

相澤委員より、文部科学省でのヒアリングから受けた好意的な印象と、現実の概算要求での結果の対応関係について確認があり、室伏学長及び榊原理事より、国立大学法人支援課での好意的な印象が財務省へ届いているか、KPI に関する評価は提出直後であるため現時点では不明である。引き続き気を引き締めて取り組んでいきたいとの説明があった。

（４）平成 28 年度補正予算（第２号）対象予定事業について

○　榊原理事より、平成 28 年度補正予算（第２号）対象予定事業について、【資料９】に基づき報告があった。

（５）外部資金獲得状況について

○　室伏学長及び榊原理事より、外部資金獲得状況について、前回の経営協議会における相澤委員からの助言を受けて、新たに間接経費金額項目を設けた【資料 10】に基づき報告があった。未来開拓基金へ高額の寄附の申し出があり、手続き上の関係から次回の 1 月 17 日開催の経営協議会において報告するとの説明があった。

（6）その他

○　猪崎副学長より、平成 28 年 6 月～9 月における本学の主な活動について、【資料 11】に基づき報告があった。

5．意見交換

（1）お茶の水女子大学への社会からの期待―女性リーダー育成の次にくるもの―

○　室伏学長より、「お茶の水女子大学への社会からの期待―女性リーダー育成の次にくるもの―」について、各学外委員よりご助言願いたい旨の依頼があった。

■学外委員からの主な意見は以下のとおり。

毛利委員　：大学経営にとって、女性リーダー育成の研究及び環境整備は価値のあることだが、実際どれほどの女性リーダーが育ち社会進出したかという目に見える成果を社会に示すことが重要である。そのためには、目の前の経営のために頻繁に方針を変えるのではなく、10 年、20 年という非常に長期的なスパンでの人材育成が必要である。例えば貴学は女性の管理職の割合が非常に高いという成果を既に示している。何故その成果が出せたかを分析し、社会に誇れるノウハウを大いにアピールしたほうが良い。また、女性のリーダーシップは時代と共に変化しており、21 世紀は国というより地球規模での考え方が求められているため、貴学はこれからの女性リーダー像の本質について考え、提案してほしい。今社会が行き詰ってきている中で、男女の別なく未来社会を生き延びる資質を持つリーダーには、日本の女性が適しているのではないかと思う。今の欧米に見られる男勝りのリーダーシップでは無理が生じているため、しなやかにコーディネーションを行い、結果的に社会の多くの人が少しでも幸せになれるようなリーダーシップが今後求められるのではないか。そうしたリーダーシップを身に着ける人材を育成し、社会に出て様々な場でのコーディネーションによって成功を収めるという成果を社会に示すための教育システムを考えてほしい。また、貴学は教育の多様性に寄与している。共学化すると多様性を失うことにもつながるため、貴学が多様性を守らなければならないという危機感を教職員が持つことも必要ではないか。

大橋委員　：これからの日本の子どもたちをどのように育てるかという課題に対し、ヒューマンライフイノベーション開発研究機構等様々な機構・研究所を立ち上げ、研究を推進していること、また学長・副学長が多彩な事業を展開・発信していることに非常に刺激を受けている。そうした事業は他大学から見ても参考になるため、次世代を背負うリーダーとは何か、女性がリーダーとしてどのように育てば良いか、という重要課題に対し、引き続き様々な取組を推進してほしい。また、教学側と事務側が連携し、堅実な仕事・教育を進めていることに大いに感動している。こうした長所をより社会に発信してほしい。学生・生徒・児童らが貴学の名前を背負って社会で大きく活躍できる場があると良い。

小野委員　：卒業生全員が女性リーダーになる訳ではないことを考えると、女性リーダー育成という柱は今後も推進してほしいが、一方でグローバル社会の中でリーダーではなく

とも基幹的な人材として社会をしっかり支える人材育成も必要ではないか。グローバル化により大きく変容する社会の中で、リーダーではないけれどもサポーター、フォロワーとして周りを助けるなど、社会の中で生き生きと自信を持って、幸せに生きていく才能も必要だと思う。

相澤委員　：今の時代は、女性の重要性が一層増していることに加え、女性も多様性の中の一つのカテゴリーとして捉えなければいけない。思想・文化・ジェンダー等様々な多様性の中から新たなものを創造することが求められている。貴学が女子大学であるが故に女性を強調しすぎると逆に均一性が強まってしまい、それを世界に出して貢献していくことは一つのパターン化ではないか。そのため今後は、女性リーダー育成の中に多様性を備えることが極めて重要である。今後の事業についても、貴学の中に閉じるのではなく、それを多様性の豊かな場として進めていくことで、最終的に豊かなリーダーシップを発揮できる人材を育成することになるのではないか。

上田委員　：社会からの期待も踏まえてこれからの方向性を考える際に、歴史とブランドを持つ貴学は、何が強みなのか、どういう形で他と差別化できるのか、何の優位性を持ってやっていけるのか、ということを、自分たちの強み・弱みを分析する中から探していくことは、一つのアプローチの仕方ではないか。

坂本委員　：創立 140 周年記念講演での、毛利委員と外山滋比古名誉教授の言葉が非常に印象的で、今後の貴学の進むべき道を導いてもらったように感じている。当初は貴学の行く末に不安を覚えていたが今日は全員の力が発揮されている様子を見て大変心強く感じた。今回の高額な寄附という素晴らしい話を大事に進めていくためには、学長に一任するのではなく、一人一人の部門の責任者がしっかりと責任を持って、どんなことが学長のサポートになるか考えることに心を寄せていってほしい。まだ多くの困難があると思うが、今日集まっているメンバーには、問題が生じた際にはそれに全員で取り組む責任がある。それぞれの先生方は素晴らしいことを考えているから、今後は全員で貴学を良くしていこうという気持ちになればより輝くと思う。

野間口委員：良き社会人・良き世界人を多く輩出するだけでも十分なことで、結果としてリーダーは育成されるのではないか。ヒューマンライフイノベーション開発研究機構、生活工学共同専攻など、非常にクロスファンクショナルな、ソリューション志向の取組が非常に増えている。更に国内の大学だけでなく、海外との連携も増えているため、こうした場で育った良き社会人・良き世界人を輩出してほしい。しなやかな女性リーダーもそういうかたちで生まれるのではないか。

■本学からの主な回答・発言は以下のとおり。

室伏学長：・日本の女性が世界の中で、世界の人々の幸せ、平和、地球環境維持のために様々な場でリーダーシップを取っていけるよう、且つしなやかなリーダーシップを持てるよう、学内で議論し、今後に備えていきたい。

・本学の広報に注力した甲斐あってか、多方面から助言をいただける状況になっている。引き続き教員と事務とが上手に連携しながら、一丸となって前に進みたい。

・毛利委員のご提案であるしなやかなリーダーの資質は、リーダーでなくとも自分の価値を認めて幸せに過ごせるような人にもそのまま当てはまると思うので、良い学生を育て、社会に輩出し、それぞれに幸せな未来を築いてもらいたい。

・これからは多様性が重要な世界になるため、人種や国籍を超えた多様性のある環境を作ろうと、留学生の受入れや送り出しを後押ししている。教員も大学に閉じこもらず色々な場へ出て行き、そこから多様な考え方を吸収してきて欲しいと思っているため、今後それを可能とするよう、課題を解決していきたい。

・様々な場で危機感を持ってもらいたいと話してきていたが、これまでの大学文化というものがあるので、自分たち自身は勿論、大学全体でもっと危機感を持つようにしていきたい。

江澤理事：本学は女子大学という希少性の高い存在かもしれないが、今日本経済の発展のために女性登用が大きな柱に据えられているため、追い風が吹いている。世の中の期待と本学の実績がうまく合致して、大変良い流れに乗っているため、今後更に本学の施策を具体化していくことが重要である。

６．その他

（１）附属幼稚園創立 140 周年記念式典・シンポジウムについて

○　室伏学長より、附属幼稚園創立 140 周年記念式典・シンポジウムについて、案内があった。

○　室伏学長より、平成 28 年度の開催予定について、【資料 12】に基づき説明があり、次回開催は、平成 29 年 1 月 17 日（火）15 時からであることを確認した。

以　　上